



EMQ-1

取扱説明書

クラビノーバ/ポータートーン/ポータサウンド用

YAMAHA

このたびはヤマハディスクレコーダー
EMQ-1をお買上げいただきましてありがとうございました。

ディスクレコーダー・EMQ-1は、
ヤマハが誇るデジタルテクノロジーを結集して完成させた
画期的な演奏記憶装置です。
MIDI対応のシングルキーボードの演奏を記録・再生できるとともに、
記録した内容は2.8 クイックディスクに記憶することができます。

〈EMQ-1の主な機能〉

演奏のリアルタイム録音／オーバーダビング／再生速度の変更／バルクデータダンプ

本書では、EMQ-1の優れた機能を十分理解していただけるよう、

正しい取り扱い方を説明しています。

ご使用の前にぜひ一読ください。

もくじ

	ページ		ページ
1 電源について	1	6 データのセーブ/ロード	9
2 各部の名称とはたらき	2	7 MIDIコントロール	10
3 EMQ-1早わかり	3	■ エラーメッセージと仕様	12
4 記録	5	■ 故障と誤りやすい現象	13
5 再生	7	■ MIDIインプリメンテーションチャート	14

ご使用のまえに ながくお楽しみいただくために、次の点にご注意ください。



…設置場所

次のような場所でご使用になれますと、故障の原因となりますのでご注意ください。

- 窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所。
- 温度の特に低い場所
- 湿度やホコリの多い場所
- 振動の多い場所
- 水平に置いてください。決してねじれた状態で使用しないでください。(ディスクエラーの原因になる場合があります。)



…無理な力を加えない

過度の衝撃や無理な力を加えると故障の原因となります。本体を落としたり、上に座ったりしないようにご注意ください。



…電源の処置

ご使用後は、必ず電源スイッチを切ってください。また、電源アダプターもご使用後は必ずはずしてください。



…外装のお手入れ

お手入れは、乾いた布でカラ拭きしてください。シンナーやベンジンなどの溶剤は、外装をいためますので、使用しないでください。



…保護カードについて

工場出荷時、本機のディスク挿入口には内部保護のため保護カードが差し込まれています。ご使用の際にはこのカードを取り外してください。

また、長い間、本機をご使用にならない場合や移動する場合は、必ず保護カードを装着してください。



…他の機器との接続

キーボードなどの他の機器と接続する場合、両方の電源スイッチを切ってから接続してください。

1 電源について

EMQ-1は、電源として別売のヤマハ電源アダプターを使用する必要があります。次の注意事項をお読み下さり、正しく接続してください。

〈EMQ-1を単独でお使いになる場合〉

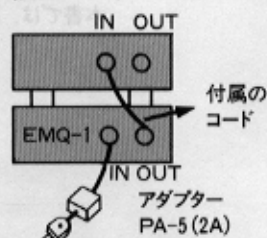
必ず、ヤマハアダプターPA-4またはPA-5をお使いください。これ以外のアダプターを御使用になりますと、EMQ-1の故障の原因となり危険です。

〈EMQ-1と他のEMシリーズを組み合わせて2台同時にお使いになる場合〉

EMQ-1を他のEMシリーズのユニット(AWMサウンドエクスパンダーEMT-10など)と一緒に使う場合は、ヤマハアダプターPA-5をお使いください。アダプターの定格電流(2A)の範囲内であれば、PA-5ひとつで複数のEMシリーズのユニットに電源を供給することができます。

●接続方法は右図のようになります。付属の接続コードを使って一台のDC OUT端子ともう一台のDC IN端子をつないでください。

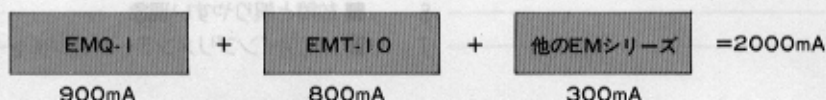
(裏面パネル) 他のEMシリーズ



〈3台以上の同時使用の場合〉

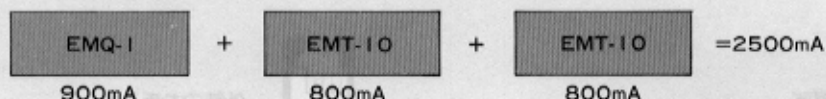
組み合わせによっては3台のEMシリーズのユニットに1つのPA-5から電源を供給することができます。(PA-5の定格電流2Aを超える組み合わせに電源供給をすることはできません。)各ユニットの最大電流値を合計したものが、2A(2000mA)を上回らないように組み合わせてください。(各機器の最大電流値〇〇mAはリアパネルに表示されています。)

[組み合わせ例:1]



この場合は、2A(=2000mA)を上回っていませんので、1つのPA-5での3つのユニットを使用することができます。

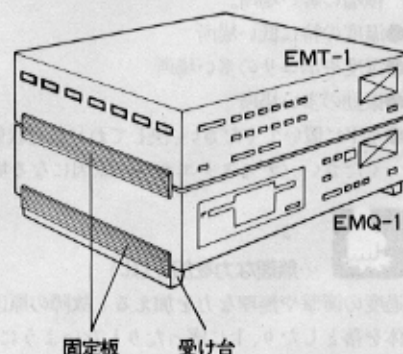
[組み合わせ例:2]



この場合は、2A(=2000mA)を超えていますので、アダプターは2つが必要です。

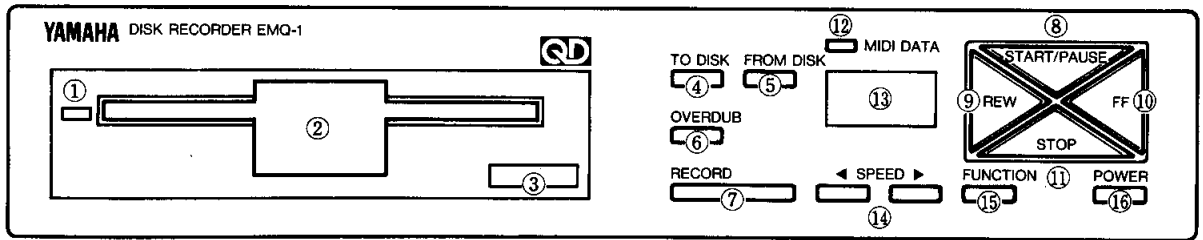
受け台と固定板の取り付け方

- 付属品には2セットの受け台と固定板があります。受け台は、御購入になられた機種を一番下にして使う時に固定板と組み合わせてお使いください。まず、受け台の5つの溝に固定板を差し込みます。それから、本体の側面にある溝に固定板を差し込んでください。同じように反対側の側面にも受け台と固定板を組み合わせたものを差し込みます。このようにするとクラブノーブなどの上にセットした場合、スピーカーからの音をふさいでしまうことがありません。
- また、他のEMシリーズをお求めになり、上に積み重ねるような場合は、固定板だけをお使いになり、下にあるEMQ-1の側面の溝と上にある他のEMシリーズの側面の溝をつなぎます。



各部の名称とはたらき

■フロントパネル



①ユーザランプ

本体とディスクの間でデータが入出力する際に点灯するランプ。

②ディスク装着口

クイックディスクを装着します。

③エジェクト

ディスクを取り出す時に押すボタン。

④トゥディスク

本体からディスクにデータを移す時に押すボタン。

⑤フロムディスク

ディスクから本体にデータを戻す時に押すボタン。

⑥オーバーダブ

本体に記録したデータに、別のデータを重ね書きする時に押すボタン。

⑦レコード

外部から入ってくる演奏データなどを記録する時に押すボタン。

⑧スタート/ポーズ

記録や再生のスタートする時、及び、再生を一時停止する時に押すボタン。

⑨REW

再生中、または再生一時停止状態で、データを早戻しするボタン。

⑩FF

再生中、または再生停止や一時停止状態で、データを早送りするボタン。

⑪ストップ

記録、再生をストップするボタン。

⑫MIDIデータランプ

MIDI信号を受信した時に点灯するランプ。

⑬ディスプレイ

ソングナンバー、記憶残量、再生ポジションなどを表示します。

⑭スピード

再生のスピードをコントロールするボタン。

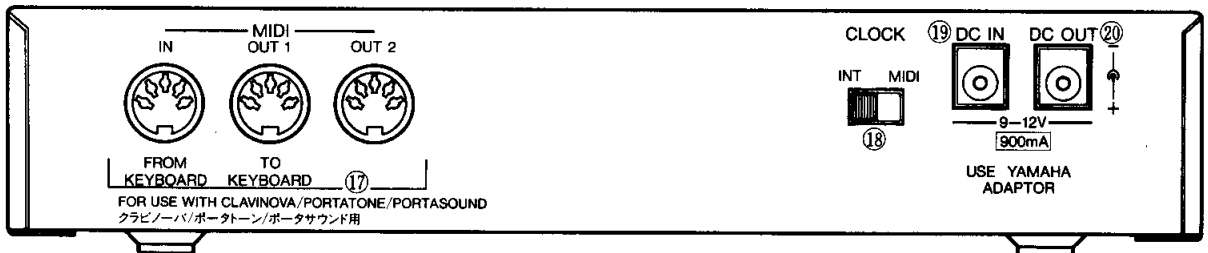
⑮ファンクション

ソングナンバーの選択、拡張ファンクションのモードの設定など他のボタンと一緒に使う多機能ボタン。

⑯パワースイッチ

電源をオン/オフするスイッチ

■リアパネル



⑰MIDI端子

演奏データなどのMIDI信号を入出力する端子。

⑱クロック

内部のクロックでEMQ-1が動作するか、外部のMIDIクロックで動作するかを選択します。

⑲DC IN

電源アダプター (PA-4/PA-5) を接続する端子。

⑳DC OUT

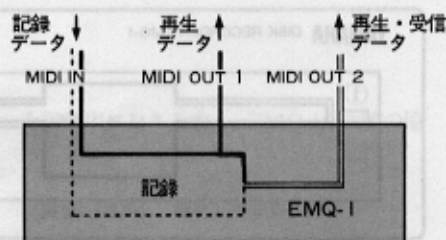
外部機器に電源を供給する端子。

3 EMQ-1 早わかり

■MIDI端子について

EMQ-1には、3つのMIDI端子があります。

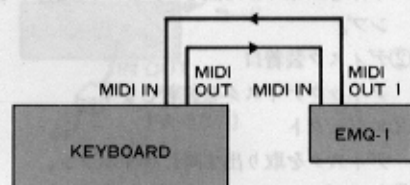
- ①MIDI IN (FROM KEYBOARD) …キーボードからのMIDI信号を入力する端子。
- ②MIDI OUT 1 (TO KEYBOARD) …EMQ-1に記録したMIDI信号を出力する端子。
- ③MIDI OUT 2…記録したデータと①で受信している信号を同時に周辺機器(音源モジュール)などに出力する端子。



■キーボードとの接続例

基本的にMIDI端子を持つキーボードならどんな機種でも接続できます。詳しくは、ご使用になるキーボードの記述をよくお読みになって送/受信できるデータをご確認ください。

- キーボードの演奏を記録して、それを再生しながらキーボードを弾いてアンサンブルが楽しめます。

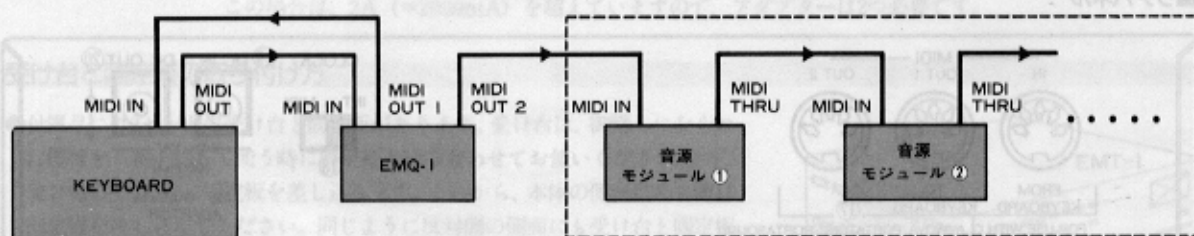
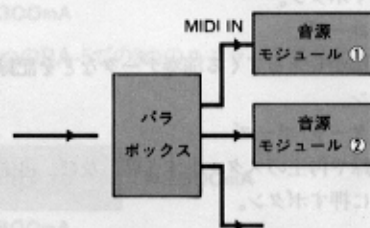


■音源モジュールなどを使用して多重録音

音源モジュール (EMT-10など) を使うと、キーボードと異なる音色でアンサンブルが楽しめます。下図のように接続すると、キーボードで弾いた演奏が、同時に音源モジュールの①と②、キーボードから発音されます。

- また、この接続方法で、EMQ-1のオーバーダブ機能を使い、パート別に音源モジュールを鳴らせることもできます。まず、キーボードの送信チャンネルを変えてEMQ-1に多重録音します。それから音源モジュールの受信チャンネルを記録したパートのチャンネルに合わせて、EMQ-1を再生します。

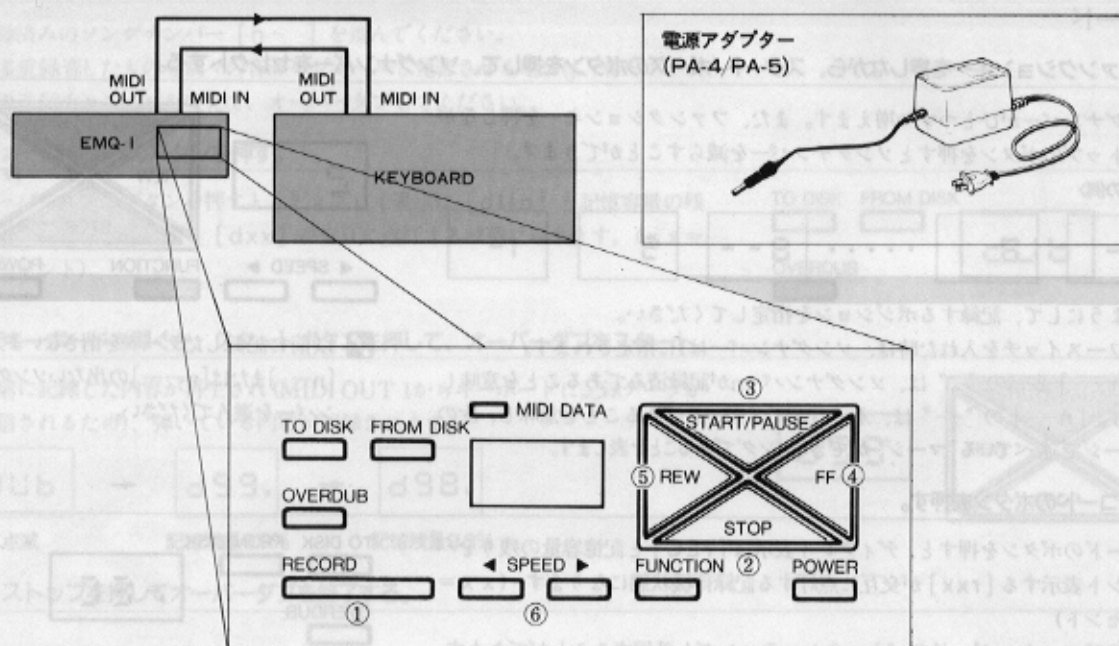
● -----内の接続は、下図のようにパラボックスを使い、チャンネルごとに情報を分けて接続することができます。



EMQ-1に演奏データを記録してみましょう。

STEP 1 演奏前の準備

- ①まずMIDIケーブルで前ページの“キーボードとの接続例”を行ってください。
- ②EMQ-1のDC-INに電源アダプター (PA-4/PA-5) を接続。
- ③それから、キーボードとEMQ-1のパワースイッチをオン。
- ④キーボードを音の出る状態にします。



STEP 2 記録

- ①①のレコードを押します。
- ②キーボードで演奏します。自動的にレコードがスタートします。
- ③②のストップを押します。記録を終了します。

STEP 3 再生

- ①③のスタートを押します。再生がスタートします。
- ②④のFFボタンを押してみましょう。再生されながら早送りされます。
- ③⑤のREWのボタンを押してみましょう。早戻しされます。
- ④⑥のスピードを調整してみましょう。再生が速くなったり遅くなったりします。

4 記録

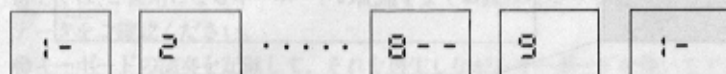
- EMQ-1本体に最大9曲まで記録できます(約6000の鍵盤情報)。この曲ごとの番号をソングナンバーといい、記録・再生時に指定することができます。
- 記録済みのソングナンバーに記録しますと以前の記録内容と置換わります。以前の記録内容に重ね書きする場合は、オーバーダブ機能をお使いください。
- EMQ-1は、1ch~16chのすべてのMIDI信号を受信します。(オムニオン、ポリの状態)そして、受信したMIDI信号をそのまますべて送信します。

レコード

1 ファンクションキーを押しながら、スタート/ポーズのボタンを押して、ソングナンバーを選択する。

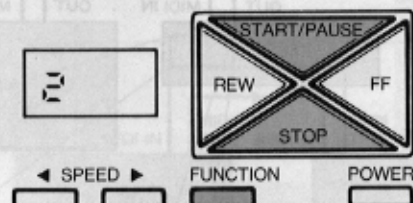
ソングナンバーがひとつずつ増えます。また、ファンクションキーを押しながらストップのボタンを押すとソングナンバーを減らすことができます。

＜表示の例＞



このようにして、記録するポジションを指定してください。

- パワースイッチを入れた時は、ソングナンバーは1に指定されます。
- [n-]表示の“-”は、ソングナンバーnが記録済みであることを意味します。[n--]の“-”は、オーバーダブデータがあることを意味し、次のページで述べている“マージ”ができるソングであることを表します。

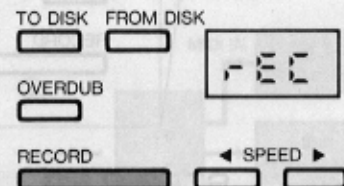


- 以前に記録したデータを消さないように[n-]または[n--]の出ないソングナンバーを選んでください。

2 レコードのボタンを押す。

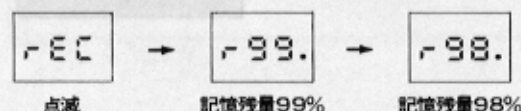
レコードのボタンを押すと、ディスプレイ表示は[rEC]と記憶容量の残りをパーセント表示する[rxx]が交互に点灯する記録待機状態になります。(xx = パーセント)

- この時に、キーボードのパネルのセッティングも受信することができます。
- また、ポータートーンなどのパルクデータも受信・記録できます。この時のディスプレイ表示は[r]になります。詳しくは、ご使用になっているキーボードの取扱説明書をご覧ください。
- このレコード待機状態で、ストップのボタンを押すと待機状態は解除されます。あやまってレコード済みのソングナンバーを選んだ場合は、この操作を行うと以前のデータを残すことができます。



3 キーボードを弾くか、スタートボタンを押して、レコードスタート。

キーボードを弾くか、スタートボタンを押すとレコードがスタートし、点滅していたディスプレイの[rEC]が点灯に変わり、本体の記憶容量の残りをパーセント表示します。



- スタートのボタンを押したあとも、記録せずにストップのボタンを押すと以前の記録データは消えずに保存されます。
- [r99.]の中の[.]はスピードでセットするテンポに応じて、4分音符単位で点滅します。
- 記録開始後、スタートボタンを押すと、リズムスタートデータを自ら記録すると同時に、MIDI OUTから送信します。もう一回押すとリズムストップデータを記録、送信します。このように交互にだします。

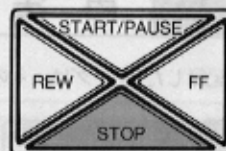


㊦ ストップを押してレコードを終了します。

ストップのボタンを押すと、記録が終了し、ディスプレイ表示が指定したソングナンバーnに記録されたことを示す [n-] になります。

- ストップを押す前にキーボード側のリズムのストップを押すとその情報を記録します。また、外部MIDIクロック選択時はこの操作でレコードを終了することができます。(11ページ)

2 -



オーバーダブ

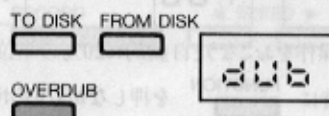
㊦ ソングナンバーをセレクトする。

記録済みのソングナンバー [n-] を選んでください。

- 多重録音したものを別々の音源モジュールで発音させる場合は、キーボードの送信チャンネルを変えて、オーバーダブしてください。

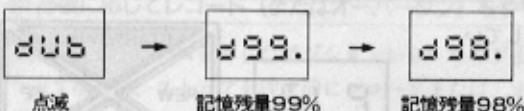
㊦ オーバーダブのボタンを押す。

オーバーダブのボタンを押すと、ディスプレイ表示は [dUb] と記憶容量の残りをパーセント表示する [dxx] が交互に点灯する状態になります。(xx = パーセント)

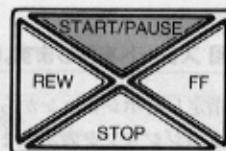


㊦ キーボードを弾くか、スタートボタンを押して、オーバーダブをスタート。

以前に記録した内容が再生され (MIDI OUT 1からキーボードに記録データが送信されるため)、弾いている内容が記録されます。



d99.



㊦ ストップを押してオーバーダブを終了する。

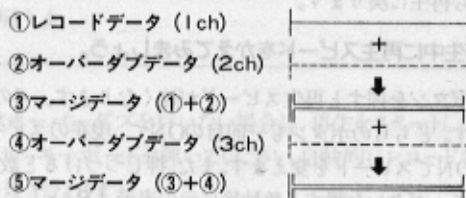
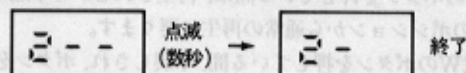
マージ

オーバーダブが終わった状態では、前に記録したものと後で記録したものは別々のトラックに記録されます。これに更にオーバーダブしたい場合は先の2つの記録内容を1つにまとめ、トラックを1つカラにしなければなりません。この2つを1つにまとめる作業を“マージ”といいます。

- 右のようにオーバーダブとマージを繰り返しながら多重録音してください。
- 記憶残量が6%未満だとマージできなくなります。

[マージの操作]

FUNCTION を押しながら OVERDUB を押す。



5 再生

記録した1ソングは、そのデータの長さ(時間)を100%として、現在のポジションをパーセント表示しながら再生します。

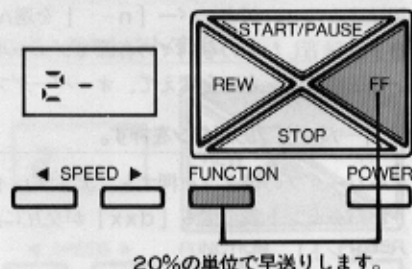
再生

1 ソングナンバーをセレクトする。

記録の時と同じ要領でソングナンバーを選び、ディスプレイに記録済みのソングナンバー [n-] または [n--] を出します。

2 必要に応じて再生スタート位置を指定します。

- FFのボタンを押すと1ソング内で早送りされ、押し始めて約1秒後に早送りスピードが速くなります。また、ディスプレイが現在のポジションをパーセント表示し、[P99] でストップします。



- 次の操作をおこなうと自動的に20%の単位で進みます。

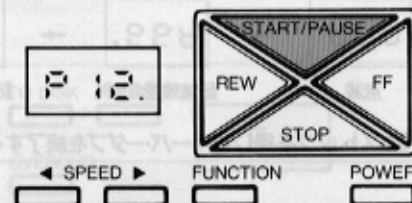
停止時に **FUNCTION** を押しながらFFボタンを押す。

- REWのボタンを押すと1ソング内で早戻しされ、押し始めて約1秒後に早戻しスピードが速くなります。また、ディスプレイが現在のポジションをパーセント表示し、[P00] でストップします。REWは [n-] の状態からは機能しません。

3 スタートを押します。(再生待機状態ではキーボードの鍵盤を弾くことによってもスタート可能)

指定したポジションから再生がスタートし、ディスプレイが現在、再生しているポジションを表示します。

- パルクデータのようなエクスクルーシブメッセージを送信している時は、ディスプレイ表示は [PLY] の点灯状態となります。
- この他に、REWを押しながらスタートボタンを押すと再生待機状態となり、MIDI信号を受信(ノートナンバーなど)して、再生をスタートすることができます。この時に、ディスプレイは [PLY] の点滅状態となり、停止時と同様の操作が可能となります。
- 再生中に早送り再生 (FF)、早戻し (REW) もおこなえます。



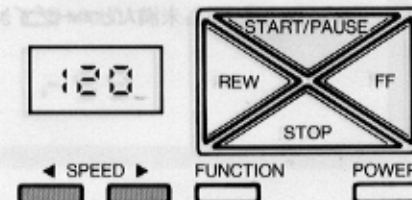
[操作]

- ・FFのボタンを押している間は、再生されながら早送りされ、ボタンを離せばそのポジションから通常の再生に戻ります。
- ・REWのボタンを押している間、早戻しされ、ボタンを離せばそのポジションから再生に戻ります。

4 再生中に再生スピードを上げてみましょう。

▶のボタンを押すと再生スピードが速くなります。◀のボタンを押すと遅くなります。どちらのボタンも一回目のONで、現在のスピードを表示し、二回目以降のONでスピードを変えます。また、押しつづけると数字が高速で変わります。そして、ボタンを離すと数秒後に元の表示 [Pxx] に戻ります。最小 [32]、最大 [280]。また、◀と▶の両方を押すと [120] になります。

- 2 この操作は、停止時、再生待機時、一時停止時にも行えます。



5 ストップを押して再生を止めます。

ストップを押すとディスプレイ表示が [n-] / [n--] に自動的に戻ります。同様に、1ソングの再生が終了した時もディスプレイ表示が [n-] / [n--] に自動的に戻ります。

再生途中からの記録（レコード）・オーバーダブ

再生途中で一時停止させ、そこからレコードまたはオーバーダブの操作がおこなえます。

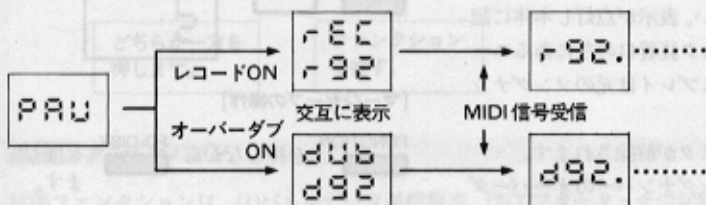
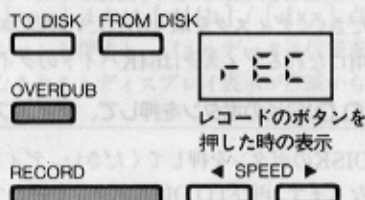
■ 再生中にスタート/ポーズのボタンを押します。

再生中にスタート/ポーズのボタンを押すと、再生が一時停止し、ディスプレイ表示が「PAU」と再生ポジションを示す「Pxx」が交互に点灯する状態となります。そのポジションからレコードまたはオーバーダブの操作がおこなえます。（xx=再生ポジション）



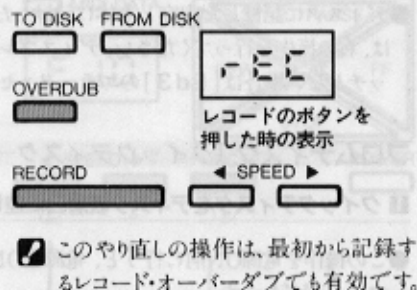
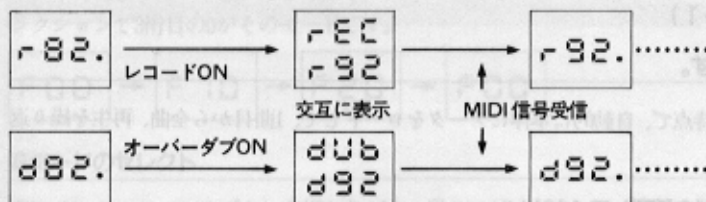
■ レコード（またはオーバーダブ）のボタンを押します。

レコードのボタンを押すとディスプレイが「REC」と記憶残量表示「rxx」が交互に点滅します。また、オーバーダブのボタンを押すとディスプレイが「dUb」と「dxx」が交互に点滅します。そのあと、キーボードを弾くか、スタートを押せばそのポジションから新しいデータに書き替わるか、重ね書きされます。



■ 必要に応じてレコード（またはオーバーダブ）をやり直す。

上の操作で、ポーズを押したポジションからレコードまたはオーバーダブをやり直す場合は、ストップを押す前にレコードまたは、オーバーダブのボタンを押します。そのあと、キーボードを弾くか、スタートが押されればレコードまたはオーバーダブがスタートします。



■ ストップを押して、レコード（またはオーバーダブ）を止めます。

ディスプレイ表示は、指定したソングナンバー「n-」/「n--」に戻ります。

[NOTE] 一時停止せずに、再生中に特定のポジションからレコードまたはオーバーダブを行いたい場合は、再生をスタートした後で、レコードまたはオーバーダブのボタンを押して、好みのポジションからキーボードを弾いてください。自動的にレコード状態またはオーバーダブ状態になり、そのポジションから新しいデータに書き替わります。



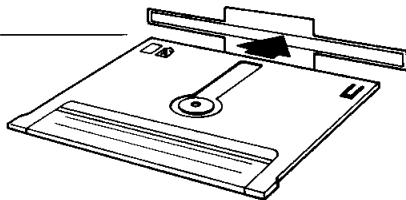
データのセーブ/ロード

- 本体内に記録したデータは、一括してクイックディスクに記録、いつでも本体内に戻すことができます。
- トウディスク・フロムディスク・ベリファイに要する時間は、約8秒。その間、クイックディスクを差し込んだり、抜いたりしないようにご注意ください。

トウディスク (EMQ-1→クイックディスク)

❶ クイックディスクをディスク装着口に差し込みます。

ディスクはA、B両面あります。記憶させたい面を上にして、ていねいに差し込んでください。ディスクを取り出したい時は、エジェクトボタンを押してください。ご使用になれるディスクは64Kバイトのクイックディスクのみです。



❷ TO DISKのボタンを押して、ディスプレイを確認してください。

TO DISKのボタンを押してください。ディスプレイ表示が[S]の点滅状態になります。再びTO DISKボタンを押してください。表示が点灯し本体に記録したデータが、クイックディスクに送られ、ディスク装着口の左にあるユーズランプが点灯します。TODISKが完了するとディスプレイは元のソングナンバーの表示に戻ります。



[マージセーブの操作]

FUNCTION を押しながら TO DISK を押します。

[ベリファイの操作]

FUNCTION を押しながら FROM DISK を押します。

- 点滅状態で、ストップのボタンを押すとトウディスクが解除されます。
- 上のトウディスクの操作では現在選ばれているソングナンバーのオーバーダブデータはマージされずに記憶します。マージして記憶したい場合は、右の操作を行ってください。
- ディスクに記憶した内容と本体に記録したデータを照合(ベリファイ)する時は、右の操作を行ってください。ディスプレイ表示は、[V]になります。マッチしない場合は[Ed3]のエラーメッセージがディスプレイに表示されます。

フロムディスク (クイックディスク→EMQ-1)

❶ クイックディスクをディスク装着口に差し込みます。

- この操作を電源ON前に行うと、電源をONにした時点で、自動的に本体にデータをロードして、1曲目から全曲、再生を繰り返すことができます。

❷ FROM DISKのボタンを押して、ディスプレイを確認してください。

FROM DISKのボタンを押してください。ディスプレイ表示が[L]の点滅状態になります。再びFROM DISKボタンを押してください。表示が点灯し、クイックディスクに記録したデータが本体に送られ、ディスク装着口の左にあるユーズランプが点灯します。FROM DISKが完了するとディスプレイは元のソングナンバーの表示に戻ります。

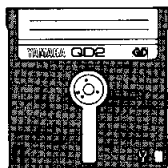


- 点滅状態でストップのボタンを押すとフロムディスクが解除されます。
- フロムディスクを行うと本体の記録内容は消えます。

クイックディスク

● プロテクト

カセットテープ同様にA、B両面にプロテクトがついています。記憶したデータを消したい場合は、プロテクトのツメを折ってください。誤ってトウディスクの操作をおこなっても記憶されずに、データが保存されます。



↑A面のツメ

● 保存

磁気のあるものに近づけたり、磁気の強い場所に放置しないようにしてください。また、直射日光のあたる所、高温、多湿の場所は避けるようにしてください。